

伝えていく風景がここに

中津川ジオサイト

(飯豊町)



中津川展望台より

「中津川ジオサイト」とは

飯豊町中津川地域には、「褶曲」と呼ばれる縦縞状の地層や、「間欠泉」かんけつせん 周辺に、まるで棚田のような面白い地形が見られるなど、地球活動の痕跡が現れる地質・地形を体験できる場所が多数存在する。飯豊町が独自にこのエリアを「中津川ジオサイト」と位置づけ、「景色をめぐって、五感で知る」取り組みを展開している。

中津川ジオサイトは「大地の記憶を語る景観」「人の暮らし・生産文化の痕跡」「大いなるものへの祈りー信仰の史跡」の3つの視点に分類され、互いが密接に関連しながら、長い年月をかけて地域全体が形成されているものだ。中津川の取り組みは、農林水産省の中山間地の特色を活かした活動を支援する「中山間地農業ルネッサンス事業」等を活用して行われており、地域資源の情報発信や伝統文化の継承活動につなげている。

地域全体の活動に

当地域の住民は、「中津川ジオサイト」の取り組みから地域資源を再認識することができたと話す。飯豊町では、今後の取り組みとして、地域住民がジオサイトのガイドを担える人材の育成も検討しており、これを契機に、観光・交流人口の拡大や地域コミュニティの維持・再生を図っていきたいと考えている。

「ジオサイト」と「ジオパーク」

ジオパークとは「地球・大地（ジオ）」と「公園（パーク）」と組み合わせた「大地の公園」を意味し、地球を学び、丸ごと楽しむことができる場所のことで、そのジオパークの見どころとなる場所を「ジオサイト」としている。日本ジオパーク委員会が認定した「日本ジオパーク」は44地域あり、その内、9地域がユネスコ世界ジオパークにも認定されている。

山形県では、山形県・秋田県にまたがる「鳥海山・飛鳥ジオパーク」が日本ジオパークに登録されている。他に、ジオパークを目指している地域としては「月山」がある。

中津川ジオサイトの紹介

海と火山の地層



浅い海に棲む生物の巣穴や火山噴火による落下物を見ることができる。環境の変化が起こったことを証明する地層。

不動滝



滝の高さは約 3m。周囲一帯に岩盤が露出し、滝壺周辺は岩のプールのようにになっている。

白川ダム



昭和 56 年に完成し、地域周辺の農地を潤している。4 月中旬には神秘的な水没林が現れる。

中津川ジオサイトマップ



飯豊山の穴堰



約 200 年前の江戸時代、農業用水不足対策として飯豊山中に作られた。地域農業の発展の礎となった歴史のかんがい施設。

岩倉神社



飯豊山の麓にあり、かつて飯豊山信仰の入口の役割を担った。静かで穏やかな空気が満ちている。

褶曲



白川ダムの湖岸にある縦縞状の地層。水平だった地層に両側から強い圧力がかかり折れ曲がる「褶曲」という現象によるもの。

<お問い合わせ>

飯豊町役場 商工観光課 観光交流室

〒999-0696 山形県西置賜郡飯豊町大字椿 2888

TEL 0238-87-0523